9/18 救急症例検討会の記事が掲載されました

令和 5 年 9 月 18 日発行『徳洲新聞』（No.1407）

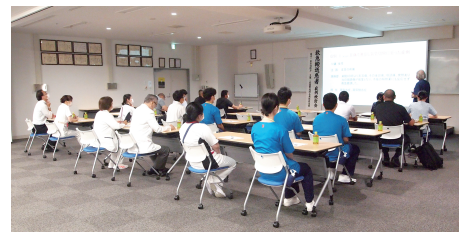
武蔵野病院

救急隊員と症例検討

顔の見える関係構築

武蔵野徳洲会病院（東京都）は、院内で「第 14 回救急搬送症例検討会」を開催した。同院に搬送した患者さんの“その後”を救急隊員と共有し、救急医療の質向上を図るのが目的。近隣の 4 消防から救急隊員が 8 人、さらに院内の多職種スタッフを含め計 30 人超が参加した。対面での開催は 2 年ぶり。

症例は阪本敏久総長が解説。まず「耳痛で発症し気管切開に至った症例」を提示し、「咽頭（いんとう）周囲の炎症で呼吸困難や発語困難をともなう症例では、気道閉塞の可能性があります。このような症例では、緊急気管切開が可能な医療機関を選定してください」。



同院に搬送した患者さんの“その後”を救急隊員と共有

さらに「左側腹部外傷で三次転送となった症例」では、「腹部外傷では、CT（コンピュータ断層撮影）を正しく判別できる医療機関を選定してください」と助言した。

検討会を終え阪本総長は「救急隊員と顔の見える関係を構築し、当院の技量を共通認識することで、搬送しやすくなると考えます。今後も定期的に開催し、さらなる地域への貢献を目指していきたい」と意欲的だ。